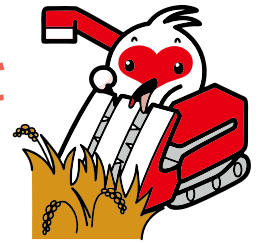


④ 米づくり農家はどんな工夫をしているの？



① 平野の稲作

信濃川や阿賀野川など大きな川の下流にひろがる平野では、作物が育つのに必要な養分を多く含む土と豊かな水、適した気候の中で、米づくりがさかんに行われています。

平野の地域では、大型の機械を使った作業がしやすくなるように、小さな田んぼをまとめて形の整った大きな田んぼにする、ほ場整備(P22 参照)を進めたり、田んぼ間の移動時間が短くなるように農家同士で稲を作る田んぼを交換するなどの工夫をしたりすることで効率的な稲作が行われています。

農業の機械化が進み、短い作業時間で済むようになりましたが、近年は肥料や機械などの価格が上がっているため、農家は価格の高い農業機械を共同で利用することで負担を軽くしたり、小規模の農家から作業

をうけおって規模を拡大することで収入を高める工夫をしたりしています。

また、米をたくさん作りすぎて価格が下がらないよう、消費者や飲食店などから求められる量や種類の米を作ることや、農業機械を無理なく長い期間使うため、コシヒカリだけでなく、収穫時期が違ういろいろな特長をもつ品種を作る工夫もしています。

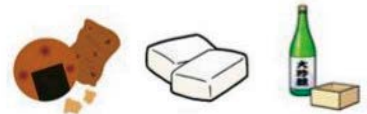
ほかにも米づくりのできない冬には野菜や花などをハウスで栽培したり、もちやみそなどの加工食品の製造・販売を行ったりすることで、一年をとおして収入を得られるように工夫をしています。



▲コンバインによるお米の収穫作業の様子

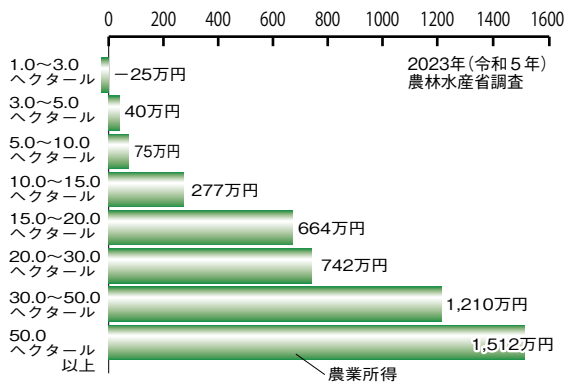


▲稲作で使っていない期間を利用したいちじくの施設栽培



ごはんとして食べるお米だけでなく、お酒や米菓に使うお米も生産しています。

● 都府県の水田作面積別農業所得 (個人販売農家・水田作経営)



メモ: 農業所得ってなに？

農産物を販売して得た収入から、農産物を栽培するためにかった費用をひいて、手元に残るお金のことです。

②中山間地域の米づくり

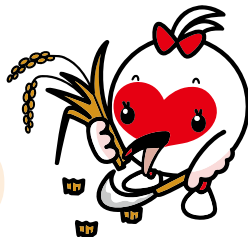
新潟県は全面積の約7割が山あいで平地な土地の少ない地域(中山間地域)にあたります。このような地域では、山の斜面などにつくられた小さくて形が不ぞろいな田んぼが多く、ほ場整備(P22参照)が難しいことから、小型の機械や、一部では人の力を使って米づくりを行っているところもあります。

中山間地域では、若い人が都市部で働くために地域をはなれたり、高齢化が進んでいることで、農業をする人が減っています。そのため、生産組織などを作って、地域の人たちで機械や作業所を共同で使ったり、農業が続けられなくなった人の田んぼを引き受けて管理したりするなど、地域全体で協力して農業を続けられるように工夫しています。

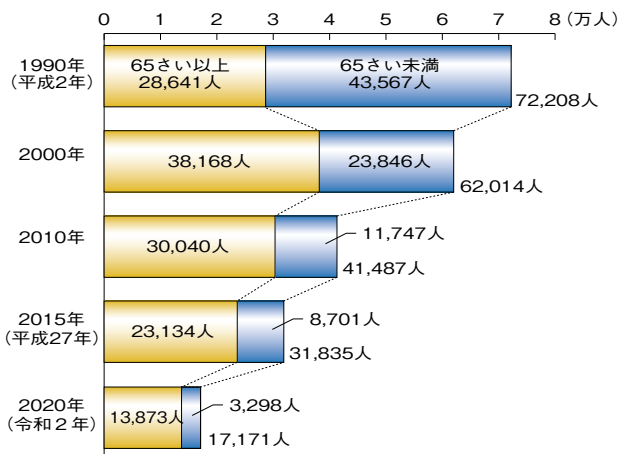
また、豊かな自然を生かした特産品を作ったり、都市の人たちを招いて交流したりするなどして、地域を盛り上げる工夫をしています。(P32参照)



ちゅうざん かん ち いき
中山間地域の
米づくりは、
作業が大変です



ちゅうざん かん ち いき ●中山間地域で農業をしている人の 移り変わり



農林業センサス

メモ:環境に優しい農業ってなに?

田んぼや畑の生き物や自然環境を守るために、農薬や化学肥料をできるだけ減らして農作物を栽培する農業のことです。

農作物を安定して収穫するには、病気や害虫から守り、元気に育てることが大切です。そのためには、農薬や化学肥料を使う必要がありますが、農薬はお米に害を与えない虫も減らしたり、肥料は川に流れて水を汚したりすることがあります。

このようなことがなるべく起きないように、農家の人たちは、農薬以外の方法を工夫したり、土を調べてから肥料を足りない分だけ与えたりして、農薬や化学肥料を減らす努力をしています。